



上電友の会だより

(空っ風通信)

「上毛電鉄友の会」の会報誌

第18号



Joden Supporters Club

赤城山麓を走る電車

上電が設立されたのは大正 15 年(1926 年)の5月 27 日。

84年目を迎えた 2010 年の設立記念日に、地域の足である上毛電鉄の末永い運行を目指して「上毛電鉄友の会」は発足いたしました。

上電は、設立 100 周年に向けて着々と時を重ねています。上電友の会も 100 周年をともに祝いするため、上電とともにひたむきに走り続けます。

挨

800 形電車の門出を祝う



昨夏までは、コロナ禍に伴う毎日の感染者の人数やその増減、交通機関の輸送人員の浮き沈み等、暗く心配の多いニュースが続きましたが、2024 年の上毛電鉄では、23 年ぶりに新たな電車が入線した明るいニュースのスタートだと思っています。東京メトロで

活躍した 03 系電車を改造した 800 形(デハ 811 とクハ 821 の 2 両ペアで運用)で、去る 2 月 17 日には、全国から参加者を募った大胡車庫でのお披露目・撮影会と、先行試乗するイベントが行われました。事前申し込み制で有料でしたが、40 名余りが参加して、車両の見学・撮影・展示即売の 3 コーナーを班別行動としつつも、参加者各自に楽しんでいただけたようです。

私たち上毛電鉄友の会は、上毛電鉄、前橋・みどり・桐生の 3 市で組織する沿線協議会と共にブースを設けて、平岡副代表が新規作成した 800 形を描いたスタンプノート等の新規グッズの販売や、佐羽副代表の歴代車両パネル展示など、ささやかながら、電車の門出を祝うイベントに協力できたと考えます。

800 形電車は、15 時半から、イベント参加者一行を乗せて、臨時ダイヤで中央前橋に向かい(私は友の会を代表して試乗)、1 時間近く停留後、中央前橋発 17:00 で大胡に戻り、この日の役目を終えました。2 月 29 日から営業運転に入り、再来年までに 2 編成が追加導入され、計 3 編成が入線する予定だと聞いています(現在の 700 系は 5 編成になる予定)。揺れは少ない静かな走行音と近代的なスタイルで、上毛電鉄の将来を担うにふさわしい電車だと肌で感じました。

(上毛電鉄友の会代表 大島登志彦)

歩

上電ハイキングのサポートを実施

令和5年11月4日上毛電鉄ハイキング「水道山と自然観察の森」が開催されました。今年度から友の会が上電ハイキングを応援することになり、第一回が今回のコースです。秋の一日、30名の皆さんが参加しました。今回の目玉は、水道山記念館と桐生カトリック修道院の見学です。水道山中腹にある記念館への道では、眼下の街並みを眺めながら桐生のまち建ての歴史を紹介しました。水道山記念館は、上皇陛下も訪問されたこともある桐生市水道の歴史を語る建物です。桐生と大間々をつないだ旧道小倉道をたどりながら、途中にある金善織物の社長旧宅にも立ち寄りました。修道院では、管理人の方から歴史や



館内の宿泊室、礼拝堂などをご案内頂き、国内に二か所しかないキリスト様の苦行の物語を示す「十字架の道」も見学させていただきました。自然観察の森で昼食後、崇禅寺では、稲荷寿司もゲット！好天に恵まれ、秋の日を浴びてさわやかなハイキングができました。

(佐羽宏之)



べ

SUPERBELL"Z 近況報告

スーパーベルズ堂込聖美です。2023 年は 4 月と 10 月の 2 回、3 年ぶりの上電イベントのステージへ、ベルズとして登壇させていただきました。少し期間が空いってしまったとは思えないほど「いつも通り」皆様が迎えてくださり、帰ってきた、帰ってこられたな、とメンバー一同とても嬉しく、とても楽しく参加させていただきました。ビール電車をはじめ、イベントでも、友の会の皆様がいつもホームのように出迎えてくださり、感謝の気持ちでいっぱいです。引き続き楽



しいステージをお届けして参りますので、今年もどうぞよろしくお願いいたします！

メンバーの活動としては、野月さんの NHK ラジオ第一「鉄旅・音旅 出発進行！～音で楽しむ鉄道旅～」のレギュラー出演をはじめ、配信での鉄活報告、各種イベントなど、精力的に行っております。

直接お会いできないときも、声や配信をお届けできる環境がありますので、ぜひ SNS などチェックくださいませ。(堂込聖美)

史

上毛電鉄創立 100 年史の進捗

上毛電気鉄道株式会社(以下上電と記す)は、1924(大正 13)年に前橋・桐生間及び大胡(伊勢崎)ー本庄間に鉄道敷設が認可され、1926 年に創立したので、2026(令和 8)年が、会社創立 100 周年に当たります。上武地域に広範囲に鉄道網を形成する構想でスタートしましたが、昭和初期の世界的な大恐慌に見舞われ、次いで日中戦争から第二次世界大戦、戦後のカスリン台風等の苦境が続きました。その後の 1950～60 年代は、高度経済成長の波に乗って、旅客が急増して 1965(昭和 40)年度には、年間 1,000 万人近くに及びました。しかしそれも束の間、1960 年代後半に入ると、モータリゼーションの進展、前橋・桐生間の主要連絡輸送が国鉄両毛線に転移した事などから、上電の旅客は急速な減少に向かいました。また、最近十数年間は、大雪や地震、台風などの自然災害や、新型コロナウイルス感染拡大問題等、多くの苦難が続くなかで、各方面からの支援によって鉄道が維持されてきました。そうした 100 年間を記録すべく意義は、大きいと感じます。

これまで上電の歴史を纏めた公刊資料は乏しかったので、上電友の会では、数年前から、表記の概説書を作成するささやかな取り組みを、本誌でも紹介して参りました。その後、私大島が精力的に進めてはきましたが、元々微力である上、その業務になかなか専念できず、会員諸氏も日々の仕事に追われる中で、進捗や協力体制は不十分でした。そしてようやく、今夏頃までに、未熟な内容ではありますが、本文と年表の下書きを仮作成できる見通しが立ちつつある状況です。会員皆様や会社のご支援をお願い申し上げる次第です。(大島登志彦)

催 アフターコロナ 上電イベント復活！

コロナ禍で様々な催し物が中止となる中で、令和5年度はとうとう上電イベントが帰ってきました。春のイベントは、令和5年4月23日の開催。前回は新春イベントで令和2年の1月3日でしたから、実に3年3か月ぶりです。

上電友の会の活動も大きく動きます。代表と副代表のトーク、プラレールコーナーの設置運営ほか、会員の皆様の交流や会員更新の場となりました。また、関係団体と連絡調整をする中で、前橋高校鉄道研究部のNゲージ展示や日本中央バスの展示コーナーなど地元ネットワークのご協力を賜りました。SUPERBELL"Z"ライブは、春と秋の2回も出演を頂きました。春にはエアトレインチャンピオンを含め4名が舞台に。秋は急なオファーだったにも関わらず、午前中から車掌DJ野月さんと友の会役員でもある堂込さんに駆けつけていただきました。ライブ終了後、物販コーナーでサインしまくり午前のうちに都内蒲田のイベントに向け出発、という強行軍でのお目見えでした。秋の感謝イベントは、10月22日の開催。友の会関係のブースのほか、上電友の会トークショーには、東武博物館友の会の花上嘉成会長に登壇いただきました。3年余のコロナ空白を通過して、恒例の花上節と東武ネタの再来となりました。

上電は令和4年に橋本社長が就任し新しい体制がスタートしています。今後ともイベント等を通じて友の会の活動を充実させるとともに、微力ながら上電の支えになり続けたいと考えています。（新保正夫）

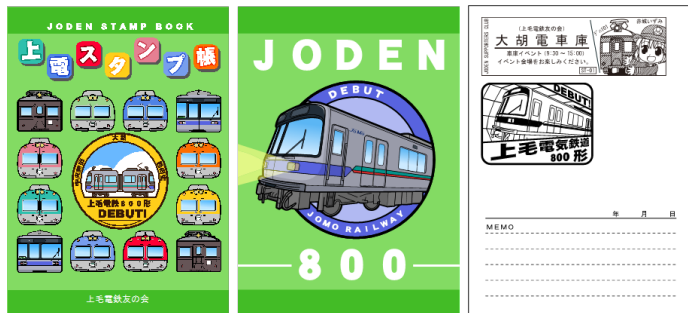


印 スタンブラリーは 800 形がテーマ

前回、スタンブラリーを開催したのが 2019 年下期でした。その後、感染症で移動制限のため大胡のイベント自体も開催できない状態がしばらく続きました。2023 年から移動制限もなくなり、大胡のイベントも再開しました。

そして 2024 年には待望の 800 形の新車がデビューしました。この新車ブームに合わせて 5 年ぶりに友の会スタンブラリーを復活します。内容は同型車または同じ路線を走った仲間たちを予定しております。どうぞご期待ください！

スタンブラリーの前段として 2023 年の秋イベントから友の会ブースに記念スタンプを設置しました。また今回の新車デビューに合わせてもう 1 種類スタンプを作成しました。第 1 弾は横長で少々押しづらかったのですが、第 2 弾はサイズを見直しました。（笑）あと宣伝になりますが上電スタンプ帳（¥300）もご用意しました。m(_)_m こちらもどうぞよろしく願いいたします。（平岡隆一）



講 フォーラム・シンポ 聴講報告

上電友の会では、令和5年秋に二つの学術的なプロジェクトの後援名義の使用を承諾し、関係者が聴講をしましたので報告します。

①11月19日「公共交通フォーラム ぐんまの公共交通を守るために」主催：群馬県スマートムーブ推進協議会 基調講演：加藤博和先生（名古屋大）ほか車両見学、ワークショップなど 於：前橋国際大

②12月16日「データ活用で切り開く公共交通の新境地」主催：前橋市、（株）NTT データ 基調講演：吉田樹先生（前橋工科大・福島大）ほかパネルディスカッション 於：前橋工科大

筆者の所感は、「公共交通の多面的機能を掘り下げては」と臆げながら感じました。加藤先生の講演は舌鋒鋭く地方公共団体や事業者に意識改革を求めるという予想とは裏腹に、やわらかな口調で「環境」のアプローチから理論を展開しました。「公共交通の維持は「健幸」保険と同じ」など、幸せの一部を担うツールとして成立するかのような期待。ややもすると「移動の手段」に偏りがちな公共交通の使命ですが、もっと多彩な役割を発掘できるはず。国鉄の車掌記に「車内は社会の縮図」という一文があり、公共交通が子供たちにとって家庭・職場以外の第三の空間として自分自身の居場所と振る舞いを感じたり正す場になりうるかな？ 鉄道に癒しを感じる筆者は、寝台列車を鉄道セラピーとして成立するかな？ などと邪推しながら拝聴し、有意義な時間をいただきました。（新保正夫）



前 県立前橋高校 鉄研 50 周年

前橋高校鉄道研究部は、2024 年度に 50 周年を迎えます！

現在の鉄研の前身は、授業の一環として始まった「必修クラブ活動」であり、そこから愛好会に活動が継承され、後に同好会として長く続いてきましたが、2015 年に部昇格を果たし、ついに「鉄道研究部」となりました。今回は、前橋高校 103 年誌において、この「必修クラブ」の鉄道研究クラブ設置が明確に記された昭和 49 年を「前橋高校における鉄道研究活動の始まり」として、現在まで続く「前高鉄研」の始まりと定義しています。

近年は、部昇格して益々活動を活性化させる現役生だけでなく、OB 有志についても同窓会を設立し、OB 同士の交流や現役生への支援、鉄道模型等のイベント出展活動を行っています。

上毛電鉄友の会とも、今まで以上にイベント等で共演・連携していければと思いますので、今後もよろしくお願いします。（小林直樹）

※写真は同窓会が作成したジオラマ（800 形お披露目会出展）



編集後記

800 形誕生おめでとうございます。子供の頃、図鑑か何かで営団の車両が並んでいるページをよく眺めていました。まさに都会の電車の象徴でした。今見ても洗練されたデザイン。沿線の人々も上電の印象がちよっと変わるかもしれませんね。

上電友の会は、これからも上電のサポートを続けてまいります。ぜひ皆様も、趣旨にご賛同いただき、会員継続をお願いします。継続の手続は、4 月 21 日（日）のイベント会場でもできます。友の会ブースで、皆様のお越しをお待ちしています。（太田聡彦）

発刊 上毛電鉄 友の会 2024. 3

WEB <https://www.jomorailway.com/supporters/>

Facebook <https://www.facebook.com/jyodentomonokai>

E-mail supporters@jomorailway.com